

令和7年度 第1回大津市科学館運営協議会 議事録要旨

令和7年6月26日（木）15：10～

1 挨拶

2 会長挨拶

3 協議及び質疑

- (1) 令和7年度 大津市科学館運営の方針及び事業計画について
- (2) プラネタリウム更新、料金改定による来館者数への影響等について

会長

どの内容でもいいですので、ご意見や質問をお願いします。

委員

先日晴嵐小学校も【かがくのこ】に参加し、楽しかった、勉強になったと言って、子どもたちが帰ってきました。予算のことで、バスの確保など難しいところもありますが、参加していない残り3校も参加できるようになってほしいと思っています。私の立場からも、科学館の良さというのを伝えていきたいと思いました。

委員

質問です。【かがくのこ】4年生が来ておられるところがあります。あとは6年生ということなんですが、それによって学習内容を変えておられると思います。そのあたりのことを教えてください。

事務局

今、言っていただいたように学年に合わせて学習内容を変えています。それは、教科書を元に考えています。6年生では、小学校で学ぶ理科の学習全般と、中学校の内容も少し入れてという内容です。4年生については、主に4年生の学習の内容にし、少し6年生の内容も入れて、6年生の内容と比べ易しい内容としています。このように対象学年に合わせてより理解度が高まるような工夫を心掛けて取り組んでおります。

委員

4年生の反応はどうでしたか。

事務局

4年生は、6年生と比べると「うわー」という反応がとても大きいです。プラネタリウムで見る星空にすごく感動を憶えているように感じます。6年生も感動していると思いますが、4年生は思いきり楽しんでいるように思います。楽しみながら勉強でき、良い学習の時間になっていると思います。

委員

4年生で参加した児童は、5年生、6年生ではもう行けないということでしょうか。4年生を参加させた学校については、5・6年生は【かがくのこ】を体験できないまま卒業するということでしょうか。

事務局

それぞれ、学校が工夫をし、行けない学年がないようにしようと考えているところが多いです。例えば、比叡平小学校でいうと、今年度は4・5・6年生が参加をしました。それは、予算をそこだけ増やしたという訳ではなく、比叡平小学校はバスでないとどうしても参加できないような場所にあるため、バス1台を借りるということになります。バス1台を借りるということであれば、6年生だけが乗ったとしても、まだ空席ができるため4・5年生も乗ることができ、3学年で参加することができました。そのようにした目的がもう一つあります。比叡平小学校は、今後6年生ではなく、4年生に【かがくのこ】での学習を受けさせたいと考えており、今年度は4・5・6年生で参加することで、体験できない学年をつくらず、4年生に移行することができるという訳です。このように、どの学年にこの【かがくのこ】の学習を受けさせたいかを考えた上で、体験できない学年をつくらないためにどうすることができるといことを多くの学校が考えて計画をしています。

委員全部の学校が参加できるような環境にしてほしいという話もありました。そして、学習の補償という形で、欠席した児童にこの学習の機会を与えることはすごくいいことだと感じましたし、それと同じように、全部の学校に学習機会の補償ができるような環境にしてあげてほしいと思いました。学校教育課と話しながら、考えていってほしいと思いました。

事務局

今までは、全部の小学校が「参加できて当たり前」という環境だったところから、選択制と

なったので、各学校が、参加するのか、しないのかというところから考え、34校が参加すると決めました。科学館としては37校に参加してほしいと思っています。なので、先程あったように学年に合った学習内容を考えるだとか、どうすると各学校がこの【かがくのこ】に魅力を感じてくれるかということを常々考えていきたいと思っています。

事務局

今年は小学校理科部会と連携し、【かがくのこ】の学習内容について考えようとしています。また、現場の先生の中にも【かがくのこ】でどのような学習をしているのかを知らない方はいます。そういった方たちにもその学習を見てもらい、こんな学習ができるなら、自分の学校の子どもたちも参加させたいと思ってもらえるように魅力を伝えていきたいと考えています。こういったことも計画しています。委員の先生方にもぜひ各学校で【かがくのこ】の魅力を発信していただけたら嬉しいです。よろしくお願いします。

委員

各学校、学年ごとにそれぞれ行事があるので、工夫をしながら参加をしているし、科学館としてはどの学年でも対応できるように準備をしているということで、それはすごい強みだと思うので、引き続きよろしくお願いします。

委員

中学校の職場体験の受け入れについてお聞きします。近い地域の学校の受け入れと書いてあるが具体的にはどこの学校のことでしょうか。

事務局

この生涯学習センターが、膳所小学校区ということもあるので、膳所小学校の子が進学する可能性のある学校ということで、具体的には栗津、打出、北大路中学校です。地域の子どもたちに体験させるという趣旨にも合う形だと思うので、このように決めています。本当は、もっと他の学校からも依頼をいただいているのですが、こちらの業務に支障が出るような受け方には問題があるので、お断りしないといけないこともあります。そういった考え方で決めているということでお知りおきください。

委員

中学校でも科学館も利用するといいのではないかという考えもあります。さわれる地球と

いう展示物からは、地震発生データが見られるなど、学習内容と合致するところもたくさんあると思うので、中学校でも参加することで新たな学び方が出来そうだと思います。職場体験をきっかけに、もっとここで学びたいという気持ちも芽生えるのではないかと思いますので、難しいかとは思いますが、他の学校の受け入れも考えてもらえたら嬉しいです。

委員

中学校籍のため【かがくのこ】に参加したことはないのですが、質問したいことがあります。今まではバスの手配など、予算については科学館がしてきたと思いますが、それが学校教育課に移管したということで、何か難しくなったことはありますか。校外学習に連れていくとなるとバスの件はとても大事になってくると思うので、そのあたりを知りたいです。

事務局

バスの手配のことですが、実は科学館職員の中にも2名、学校教育課兼務となったものがあります。だから、その2人は学校教育課の予算をさわれるようにはなりました。主にバス会社との日程のやりとりについては科学館が行い、その結果を学校教育課の方に伝え、学校教育課の事務担当の方が入札に向けて動くという形で、バスの手配をしています。だから、各学校に何か負担がかかるようなことにはなっていないと思っています。

委員

【かがくのこ】に参加したいとなっても、バスでは行けず断念した学校があると聞きましたが、こういった基準で決めているのか教えていただきたいです。

事務局

予算が削られたことで、電車で来ることができる可能性のある学校に、電車で来てもらえないかとお願いをしました。

委員

行きたいと思っていたのに、行けなかった学校については悔やまれるなと思いました。各学校が相談をすれば、もしかしたら参加できたのではないかと思いながら聞かせていただきました。

委員

特別支援学級の担任をしています。通常級とは違う形で理科の学習をすることもあるのですが、特別支援学級の児童は、理科など体験的な授業が特に好きだと感じ、食いつきがとても良いと思っています。学習させようという気持ちはもちろんのこと、体験させて、良い経験ができたと思えることをさせたいとよく思っています。何か特別支援学級を対象にした何か取り組みがあればいいなと、話を聞きながら思っていました。すごく特別扱いになってしまうかもしれませんが、もっと言うと、出前授業など普段の学校生活ではできないことを体験できればいいなと思いました。もし、やっていただけたら、児童の笑顔が増えるだろうなと思ってる提案です。

事務局

県内だけでなく、県外の養護学校の方たちにもよく来てもらっています。重度の方も含めたくさん来ていただいています。そう考えると各小学校の特別支援学級の児童が科学館に来ることは、おかしい話だとは思いません。しかし、何をするにしてもお金が必要となってきます。そういう声を、学校を通して、教育委員会に届けることで、実現できることもあります。ただ、1校だけの力では難しいところもあると思うので、いくつかの学校が声を合わせていただけると、科学館としても対応できることもあるのではないかと思います。

委員

昨年度から、今年度から【かがくのこ】は選択制になると聞いていて、どのくらいの学校が選択するのかと心配していました。すると、37校の内34校が選択したということで、この【かがくのこ】事業を各学校がすごく大事にしているということがわかり、安心しました。それに関わって、3学年に対応する科学館の先生方のご苦労も感じられます。4年生と6年生ではかなりいろんな点で違うと思うので、みんなが楽しく学習するためには、かなり職員さんの工夫と苦労をしてくださっていることが想像できます。そのご苦労には、頭が下がる思いです。そして、明日、教育委員が見に来られるということですが、頑張ってもらいたいなと思っております。やはり、そういう方からのご意見というのは大津市を動かす力があると思いますので、このチャンスを逃さないでください。そして、来年度はバスの心配をせず、みんなが来れるようになってほしい、どの学校も選択できるようにしてほしいと思っています。それだけの予算を確保してほしいと思いますが、そういった作戦はありますか。

事務局

予算のことで言いますと、いろいろな学校教育を目的とした予算がついています。ですから、本来なら目的別に予算がついていますが、全てが全額執行するわけではありません。なので、余る予算も出てきます。今回の予算については不足をしているので、限られた予算を上手に使っていくということはしていかないとはいけません。ただ、現在科学館がそれをしようとしても科学館に予算がついていないので、それを学校教育課にやってもらっているということになります。学校教育課もとても忙しい部署でもあるので、この1年こういう経験を積んでもらった中で、来年度以降どうしていくべきか考えていこうと思っています。今年度でいうと、一応予算の範囲内でおさまりました。予算上不足は生じていないということになりますが、それは参加していない学校があったためです。もし、全部の学校が参加するとなれば不足が生じます。大津の子どもたち全員に経験させてやりたいという気持ちは一緒ですので、学校教育課としてもそれが実現できるように努力するはずで、それについては、科学館と学校教育課、共通の認識をもっています。今後、参加校が増えることは良いことだと思うので、我々もそれに対応できるよう努めてまいりたいと思っております。

事務局

参加したかったけどできなかった学校について話をします。その学校は、バスから電車に変えてもらう依頼をした学校です。基準としては、「駅までの距離」「学校の規模」を考え、依頼をしました。しかし、バスでないと厳しいという学校の判断から、参加を見送るということになりました。それは本当に悔やまれる話だと思っています。来年度もそれで良いとは、科学館としても思っていない。先ほど話があったように、明日の教育長・教育委員協議会に向けて、これまで準備してきました。【かがくのこ】の魅力をきちんとアピールし、十分な予算を確保できるように頑張ってきます。

委員

中学校でも特別支援学級の生徒たちに校外学習で科学館に連れていきたいと考えたことがあります。しかし、なかなか予算のことなど、時間的な問題で難しいところもあるがぜひ利用させていただきたいと思っています。そんな気持ちを持っているということだけでも伝えさせてもらおうと思います。

委員

保育主任をしています。その中でも3歳児と関わるのが最近は多いです。その園児の保護

者の方の話を聞くと、どこに行こうかという悩みを常々もっておられるようです。夏休みになると暑いから、涼しいところに行きたいとなると、科学館はすごく涼しい、いろんな楽しいものがあるところだと思います。しかし、はじめての PL は「8月を除く」ということなので、残念に思っていました。もし、夏休み期間にそういった小さな子どもたち向けの取り組みをしていただけたら、助かる保護者の方はたくさんおられるのではないかと思います。4・5歳となると、しまじろうや忍たま乱太郎のおもしろさもわかってくると思うけれど、まだまだ小さい3歳児のことを考えると難しいのかなとも思います。家族みんなで楽しめるのも良いと思うので、そういったプログラムも考えていただけたら嬉しいです。

事務局

検討していきます。ご意見いただきありがとうございます。

委員

展示ホールの話に、「水族アドバイザー」とありましたが、どんな人が来るのですか。それと、個人的には、イブニングプラネタリウムにとっても興味をもちました。ぜひ、行かせていただきます。

事務局

水族アドバイザーは元琵琶湖博物館学芸員の松田さんです。魚の飼育についてなど、アドバイスをいただく機会をつくることを目的に、今年から年間6回ほど来ていただくこととなりました。イブニングプラネタリウムもお待ちしております。

委員

プラネタリウムの更新に向けての話で、交付金を取りに行くということでしたが、私たち運営委員会にも何かできることはないのかということを考えています。科学館が抱えている大きな課題の一つだと思います。運営協議会からも強く訴えていけたらと思うので、何か私たちにできることはないでしょうか。

事務局

今、取りに行っている交付金は、地域再生に役立てるという目的に使うものです。大津市の方にはもっと大津市を愛していただいて、近隣の市の方にはプラネタリウムを見て大津市を好きになっていただきたい、そして「また来たい」と思ってもらいたい、というような観

点で、地域再生計画というものを作成し、申請していくこととなります。今年度については、採択をしてもらっています。そして来年度に向けて地域再生計画を作成する中で、「地域の中での連携」「地域間の連携」「大学などの学校、企業、金融機関、マスコミ」など様々なところと一緒にやっていくというところもポイントになっています。まず大学には連携をお願いしに行きます。成安造形大学にはすでに星座物語を作ってもらっていますが、そういった関係をもっと広げていこうと思っています。そして、大津の天文同好会とも何かできるのではないかと考えています。もちろん琵琶湖博物館とも連携させていただきたいと思っています。交付金をとったことのある他の自治体からもアドバイスをもらいながらやっていこうと思っています。そういった連携を頑張ってやっていきたいと考えていますので、また相談にのっていただけるとありがたいと思います。

事務局

違う視点から話をします。プラネタリウムを更新するために3億円必要だという見積書を業者からもらっています。そうすると3億円を大津市で負担することとなります。ただ、大津市として3億円を科学館に投資する価値があるのかということが問われることになります。大津市の人口は約34万人です。その市民のみんながプラネタリウムを見ているかといえばそうではないと思います。大津市としては、いろんな事業をしているので、科学館にプラネタリウムが本当に必要なのかを考えることになります。我々としては、必要だと考えており、何とかしたいと思っているので、市民のみなさんに、「プラネタリウムは必要だ」ということ「プラネタリウムがあるから大津市科学館には魅力があるのだ」ということを理解してもらわなくてははいけません。我々は、そのための努力をしていかななくてはなりません。これから、様々な場面できちんとアピールをしていきます。国から支援をもらえれば、市としての負担も減りますので、何とか頑張っていきます。開設者である大津市が責任をもって維持・管理をし、更新の時期が来れば市の負担でやっていくのが本来の姿だとは思っていますが、やはり今後人口が減っていく、財政的にも厳しくなってくることにともなります。しかし、この更新の話は、機械ですので、おそらく15年後には同じ話をする事となります。そういうことも含め、科学館の存在意義・価値を高め続けていく必要があると思っています。そのために、運営委員のみなさんにはご協力いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

委員

どういう考えで、どういうことをしようとしているのかということがよくわかりました。私

たちもそれぞれの立場で、機会があるときに声をあげていくといことはできるのではないかと感じました。

会長

それでは、一通り意見をいただけたかと思います。

以上を持ちまして、協議及び質疑を終わります。ありがとうございました。